



主な内容

"つなぐ"平和への思い
 中学生長崎派遣・平和祈念式典・とうろう流し…2面
 市職員を募集 ……2面
 手賀沼チームランうなぎちカップ ……3面
 骨粗しょう症検診 ……4面
 ファミリーサポートセンター入会説明会 …4面
 児童扶養手当 現況届を忘れずに ……5面

平和のためにできることって 日常で感じる幸せを守るためにできること

同世代と話してみたい

小学生のころ、母と平和について話したことがあります。その時は「原爆で亡くなった人はかわいそう」という思いでした。小学6年生で受けたリレー講座で「原爆で生き残った人も大変で苦しい思いをしたんだ」と初めて知りました。そこから、中学生になったら広島へ行き、他の中学校の同世代と平和について話してみたいと思うようになったんです。

被爆地での学び

「当時、広島には当たり前の生活があって、原子爆弾はそれを奪った」。広島平和記念式典での小学生の平和宣言が印象に残っています。日常の生

活が急になくなる怖さや、亡くなった多くの人たちには生きていくはずだった未来があったこと、生き残った人たちの感情などを考えることができるようになりました。被爆地に行ったからこそ、感じられたものがあり、学べたことがありました。そこから、平和への強い思いが生まれました。

これからもつなげていきたい

平和のためにできることって、言い換えれば「日常で感じる幸せを守るためにできること」だと思います。小さなことでも、できることを少しずつみんなが取り組めば平和につながると思います。私ももっと勉強して、リレー講座の先輩たちと一緒に、リレー講座をつなげていきたいです。



たかすま ゆか
高須 万悠香さん
 (高校1年生・湖北中学校卒)

"つなぐ"平和への思い

私たちにできることってなんだろう

平成27年から始まった、広島と長崎に派遣された若者たちが小学生に平和の大切さを伝える「リレー講座」今年、講師になった2人が語る“平和への思い”

考えたことがなかった

正直、平和って考えたことがなかったんです。中学校で学年委員長だったとき、先生から「広島に行ってみないか」と声を掛けられたんです。親と相談して何気ない気持ちで広島派遣団に参加しました。

広島派遣がきっかけ

被爆した方の体験談は、私の想像をはるかに超えていました。知っていると思っていた戦争の恐ろしさが身にしみて伝わってきて、原爆は二度と使ってはいけないと実感させられました。被爆者の思いを肌で感じたことで、平和の大切さを伝えていきたいと考えるようになったんです。

思いをリレー講座で伝える

母校の第一小学校で、初めてリレー講座の講師として小学生に話したんです。思っていた以上に広島・長崎のことを知っていて感心しました。みんな平和って簡単に言うけれど、平和を実現するには何をしたらいいのか。自分なりの答えを探すために「平和ってなんだろう」って自分に問いかけ、考える。そして、できることからやってみる。それが大切なんだと思います。その思いをリレー講座で伝えていきます。

自分なりの答えを探すため
 平和ってなんだろうと自分に問いかけ考える



せと だいせい
瀬戸 大晴さん
 (高校1年生・白山中学校卒)